

札幌市立認定こども園にじいろ 研究だより 第2号 令和5年8月8日(火)発行

認定こども園にじいろ・かっこう幼稚園 研究重点 心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための保育者の援助と環境構成

今回の研究だよりでは、3歳児と0歳児の実践事例を紹介します。

実践事例 3歳児(ぱんだ組) ~誕生会から繋がった「色水遊び」~

【色水遊びが始まるまでのクラスの実態】

約半数が新入園児という構成でスタートした年少組の4月。一人一人の好きな遊びや経験、発達段階が異なる中で、昨年度の研究考察から、まずは安心感をもてるように配慮しました。遊び慣れた玩具をいっても使えるようにしておく他、一日の流れを一定にして見通しをもちやすいようにしました。また、同年齢保育をベースとし、「いつもいる先生や友達」が分かるようにしました。徐々に新しい環境に慣れ、喜んで登園し、新しい遊びにも挑戦する姿が見られ始めました。(子どもたちの姿を捉え、現在は異年齢保育も取り入れています。)



遊びの「種」

子どもたちの遊びの興味は様々ですが、4月の誕生会で子どもたちに共通した「やってみたい」の種が見つかりました。保育者が行ったジュース屋さん(色水マジック)の出し物がきっかけです。「やってみたーい!」と言う子、言葉には出さずともそっと触れに行って興味を示す子、行動には出さずとも目をキラキラさせている子など、反応は様々でしたが、保育者は一人一人の想いや興味をキャッチするよう努めました。

色水っておもしろい!

「色水」 = 夏に戸外で行う遊び!?

子どもたちの「やってみたい気持ち」を汲み取り、使用する教材や環境を見直すことで、室内でも色水を作って遊べるようにしました。

作った色水が室内にあることで身近なものになり、子どもたち自身がままごとやブロックなどの日常の遊びとつなげて遊び始める姿が見られました。



自分で使う分の水を量り、赤・青・ 黄色の3原色から好きな色を選ん で、ジップロックの中に入れて揉み 揉み!振り振り!

※自分で最初から最後まで作ったことで、「できた!」の満足感を感じられていました。







ジュースにしたり、シロップ薬にしたり、「海」に見立てたり。 ※想像を膨らませながら、遊ぶ姿がありました。





※色の混ざりを発見したり、想像したり、保育者や友達に「伝えたい」という気持ちが芽生えました。

お友達と色や濃さが違う。

どうしてかな。聞いてみようかな。



話し合いから

- ・子ども自身が「やってみたい」と心を動かし、実際に「できる」ことで充足感を感じられる。 「もっとやりたい」「またやりたい」と遊び込む幼児を育む土台になるこのような経験をたくさ ん保障したい。
- ・遊びを継続するためには、既定の遊び方に捕われず環境構成を工夫したり、発達に合わせた援助 をしたりすることが大切である。
- ・「作って終わり」ではなく、遊び続けられる安心感があったのではないか。また、遊び続けることで、自分で遊びを工夫し、より楽しむ姿がある。子どもたちの様子を見取り、さらに遊びが深まるための配慮が必要となっていく。
- ・作ったものを見てもらったり、友達が作ったものを見たりすることが刺激となり、その後のやり取りに繋がり、遊びが豊かになっていく。保護者や他クラスの子どもの目にも触れられるようにすると、一層の刺激になるかもしれない。

話し合いの後も、子どもたちの発達段階に合わせることを前提としながら、すべての遊びを保育者が決めてリードしてしまうのではなく、子どもたち自身の「やってみたい」の気持ちを受け止めて活動に取り入れています。 幼児期のすべての学びにつながる遊びを、今後も大切に支えていきます。



【自然物での色水も面白い!】

散歩先で見つけた「不思議な実」で色水ができるかも!?と子どもたち。予定外の活動でしたが、帰ってすぐに試してみました。数日前に保育者が遊びの中で伝えた「タンポポでの色水作り」から連想したのでしょうね。

【さまざまな感覚で楽しむ色水遊び】

ドロっとした色水絵の具でハンドペイントを したり、寒天で固めたツルツルの色水に触れて みたり。一人一人が楽しめる色水遊びを子ども たちとの対話の中から探っています。

_{የተ}ለተፈተተ ልላ ይለተ ተፈላ ተላለ^ተላ ተ



実践事例 0歳児(らっこ組) マットで遊ぶのって楽しい!



四つ這いやつかまり立ちで体を活発に動かすことが多くなってきました。子どもの、"探索したい"や"動きたい" 気持ちを受け止めながら安全に楽しく体を動かせるようウレタンマットを取り入れています。保育者が声をかけながら一緒に登ったり楽しんでいる姿を見せたりすることで、安心感のある中で"楽しいな"の気持ちを育んでいます。